

学ぶ意欲を高めるための改善に関する研究 (2)

植田 深幸*・魚住 政男**・澤本 章・林川 基治・宮崎 擴道***

Investigation on How to Motivate Pupils to Study (2)

UEDA Miyuki*, UOZUMI Masao**, SAWAMOTO Akira, HAYASHIKAWA Motoharu,
MIYAZAKI Hiromichi***

(Received January 15, 2009)

キーワード：学校教育、アンケート、学習意欲、理工系離れ、技術、ものづくり、
総合学習、ICT 教育、学習指導要領、教材

はじめに

時代の進歩とともに、青少年の価値観、道徳観などが、大きく変化してきているためか、青少年の学力低下、不登校、学級崩壊、理工系離れ、ものづくり技術離れ、などの学校教育現場での問題が生じている^{1),2)}。

一方、2000年、2003年、2006年のOECD国際学習動向調査結果により、日本の子供の学力低下傾向が指摘された。これをうけて、学力を向上させるための試みが、推進されている³⁾。

すでに、2000年、2003年、2006年のOECD国際学習動向調査結果及び1995年、1999年、2003年のIEAが行った国際数学・理科教育動向調査結果より、日本の子供たちの学力の実状を把握した上で、小学校における授業科目への意識、ものづくりへの関心度、学ぶ意欲を高める有効な方法・工夫、小学校における英語の必修化などに関するアンケート調査を大学生に対して行い、その結果の一部については報告した⁴⁾。ここでは、アンケートにより、理工系離れ、小学校へのものづくり教育の推進、ICT教育、総合的な学習の時間について、大学生の意識調査を行った。これらの調査結果をもとに、最近の学校教育において、学ぶ意欲を高めるための方法を検討しようとした。

1. 研究方法

2000年、2003年、2006年のOECD国際学習到達度調査と1995年、1999年、2003年のIEAが行った国際数学・理科教育動向調査結果より、我が国日本の学力の実状の把握に努めた。また、現在の学校で行われている学ぶ意欲を高める工夫についても、その把握に努めた。小学校教育に対する意識や意欲について、山口大学学生へ「小学校学習時を振り返っての

*下松市立久保中学校 **ホームネットワークウオズミ ***元山口大学

学習に対する意識や意欲について」のアンケート調査を行った。そして、子どもたちの学ぶ意欲を高めるためには、どのような工夫や改善が必要かを検討した。アンケート調査は平成 19 年 12 月～平成 20 年 1 月の期間に行った。山口大学 1 年生、2 年生、3 年生、4 年生総数 97 人（男性 50 人、女性 47 人）についてアンケートを実施した。

2. 調査結果及び考察

2-1 アンケートの回答

学ぶ意欲を高めるための研究をすすめるために、大学生へのアンケート調査を実施した。アンケートは、理工系離れ、小学校へのものづくり教育の導入、ICT 教育、子供の学力向上に必要であるもの、総合的な学習の時間に関するものである。

図 1 は、アンケート用紙を示した。6 つのアンケートが含まれている。

図 2 及び表 1 は、以下の問に関する回答結果をまとめたものである。すなわち、「**図**児童の理科離れ、算数離れが、社会問題となっています。その対策のために、学習指導要領改定後は、小学校理科、算数の授業時数の増加が計画され、理科、算数の学力の向上を目指しています。（理科の授業時間の例：小学校 5 年生、現行 95 コマ/年→改定後 105 コマ/年）（算数の授業時間の例：小学校 5 年生、現行 150 コマ/年→改定後 175 コマ/年）その反面、総合的な学習の時間が削減されます。（総合的な学習の時間の授業時間の例：小学校 5 年生、現行 110 コマ/年→改定後 70 コマ/年）理科授業時数の増加と総合的な学習の時間の減少についてどう思いますか？」

調査結果を見てみると、理数の力を高めていくことが大切だと感じている回答は多い。しかし、総合的な学習の時間を 3 分の 1 削減してまで、理数の時間を増やす必要があるのか疑問に感じている回答も多い。総合的な学習の時間は、概ね、多くの学生が、「総合的な学習の時間では、普段学べないこと、ものの考え方、世界観を学ぶことができる」と考えている。図 2 から、大変賛成、大変反対が少なく、賛成、反対、普通が非常に多いことから、どちらがいいのか、あるいは、どちらがよくないのか判断しきれぬ場合が多く、どちらともいえないと判断するのが回答者の現状であるように推察される。

図 3 及び表 2 は、「**図**製造業における若手の後継者不足が社会問題となっています。ものづくり技術力を保持してきた日本ですが、これが揺らぎはじめています。この対策として、技術関係の学会などが主体となって、小学校段階からのものづくり素養を育てる教育を推進しようとする動きがあります。これについてどう思いますか？」に関する回答結果をまとめたものである。図 3 及び表 2 から、小学校段階でのものづくり教育について、大いに賛成、賛成という回答が非常に多い。大いに賛成、賛成の意見では、「興味・関心を持つことは大切、ものづくりの技術は将来必要、目的があれば努力できる、ものづくりを通して友情も深めることができる」などの意見があった。反対、大変反対の意見としては、「小学生には勉強させるべき、大人の考えを押し付けるのはよくない」という意見があった。反対の回答は少数あったが、ものづくりは必要だと感じている人が多い。

図 4 及び表 3 は、「**図**小学校において、コンピュータを活用した ICT（情報通信技術）教育が推進されようとしています。（ICT 教育：日本の小中高高等学校における情報コミュニケーション技術へのアクセス機会の拡大を通じ、教職員、児童、生徒の情報コミュニケーション技術の向上を図り、情報化社会に貢献する人材育成に寄与することを目的とし、そ

のための教育を行うこと。パソコンやメディア映像を併用した授業がそうでない授業に比べて、生徒の学習効果が向上している結果が報告されている。)このような授業の実施について、どう思いますか?」に関する回答結果である。

図4及び表3から、ICT教育に賛成の回答が約8割を占めている。賛成の意見としては、「将来役に立つ、媒体があると理解しやすい、小学校からだど習得しやすい、意欲が増す」などの意見があった。反対の意見としては、「インターネットが悪影響を及ぼすのではないか、外で遊ぶ時間が減る」という意見があった。全般的に、きちんとマナーを教え、外で遊ぶ時間を確保すれば大変役に立つと考えている者が多い。

図5及び表4は、以下の間に関する回答をまとめたものである。「子どもの学力向上を行うには、どのようにすればよいかについて、以下の語群①～⑫の中からとくに効果的と思われるものを3つあげなさい。

- ① 勉強するための場所、時間を確保する
- ② 勉強するための動機付けを自覚させる (将来の職業や人生設計のための勉強をし、学力向上が必要)
- ③ 教材の開発をする
- ④ 興味を引き起こす授業を行う (生徒に授業のおもしろさを体験させる)
- ⑤ 塾に行かせる
- ⑥ 勉強する習慣をつけさせる
- ⑦ 集中力をつけさせる
- ⑧ 生徒にやる気をおこさせる
- ⑨ 家庭を勉強しやすい穏やかな雰囲気とする
- ⑩ グループ学習をする
- ⑪ 競争させ、生徒に刺激を与える
- ⑫ 親が勉強するように言い聞かせる

図5及び表4から、「塾に行かせる」との回答は、無しである。つまり、学力向上は学校や家庭に求められていると判断している。また、特に多いのは、「興味を引き起こす授業を行う」との回答である。これより、子どもたちの興味・関心を大切にしていくことが求められていることがわかる。また、表4から、意見として、「子どもが自発的に勉強できるようにする、反復学習、基礎的な力を身に付ける」などの意見があり、子どもたちが自分で学ぶのに必要な力をつけていくことが大切であると考えられる。

図6及び表5は、「あなたは総合的な学習の時間の授業を受けたことがありますか。あると答えた方で、特に印象に残っている内容があれば教えてください。」に関する回答結果である。図6及び表5より、総合的な学習の時間で、学生の印象に残っているのは、職場体験、進路について考える、栽培、清掃活動などが多い。総合的な学習の時間は他の教科と違い、取り扱う内容は参考にするものはあるが、統一して行わなければならないものはない。つまり各学校の裁量で組み立てて総合的な学習の時間の授業にすることができる。各学校の特色に応じてできるという長所がある反面、何をすればいいのかわかめないというのも現状である。

図7及び表6は、「現在、新しい学習指導要領の改訂作業が中央教育審議会(文部科学省の諮問機関)で大詰めを迎えています。その中で、総合的な学習の時間が3分の1削減されようとしています。あなたはこれについてどう思いますか。また、その理由を教えてください。」

ください。」に関する回答結果である。図7及び表6から、総合的な学習の時間の削減についての結果は賛否両論であることがわかる。「総合的な学習の時間は意味があったのか分からない、他の授業に回しても問題ない」という意見があると同時に、「総合的な学習の時間は他の授業では学べないことが学べる、人間的な内面を成長させることができる」という意見がある。

2-2 アンケート結果の考察

小学校段階にものづくりを取り入れることに対しては、賛成が多数で反対は少ない。生活に即したものづくりを取り入れることは生きる力にもつながるなど、技術力の向上だけでなく、精神面の向上にもつながると考えている人が多いと考察される。

総合的な学習の時間については、理数離れに伴い理数の時間を増加させて、総合的な学習の時間が削減されようとしている。このことに関しては賛否両論で総合的な学習の時間は人間の内面を成長させてくれる、広い視野で世界をとらえることができるという意見がある反面、何を学習したのか分からない、学力低下に対する効果がないという意見もあった。総合的な学習の時間は文部科学省をはじめ教育委員会、各学校でどのように取り扱っていくのか今も模索しているのではないかと推察される。

大学生に対してのアンケート調査を行った結果、多くの学生が、「教育に対して何らかの関心や意見を持っている」ことが明らかとなった。また、「多くの学生が、体験や活動、ものづくりが学ぶ意欲の向上や学習に役に立つと考えている」ことが分かった。学習指導要領がめざす自ら学び自ら考える力つまり生きる力を身につけるためには、子どもたちの興味・関心に基づいた内容や視覚に訴える教材、体験や活動を効果的にとり入れる、そして生活に即した内容にしていくことが大切である⁴⁾。

3. 結言

理工系離れ、小学校へのものづくり教育の推進、ICT教育、総合的な学習の時間について、大学生の意識調査を行った。これらの調査結果をもとに、最近の学校教育において、学ぶ意欲を高めるための方法を検討しようとした。得られた結果を要約すれば以下のとおりである。

- (1) 「理科授業時間数の増加と総合的な学習の時間の減少」について、どちらがよいともいえないと判断するのが回答者の現状である。
- (2) 「小学校段階でのものづくり教育の推進」について、肯定的な回答が非常に多い。
- (3) ICT教育に賛成の回答が約8割を占めている。
- (4) こどもの学力向上を行うには、「興味を引き起こす授業を行う」との回答が最も多い。また、これについて、以下の回答も多い。
 - ・勉強するための場所、時間を確保する。
 - ・勉強するための動機付けを自覚させる（将来の職業や人生設計のための勉強をし、学力向上が必要）。
 - ・勉強する習慣をつけさせる。
 - ・集中力をつけさせる。
 - ・生徒にやる気をおこさせる。
- (5) 総合的な学習の時間で、学生の印象に残っているのは、職場体験、進路について考える、栽培、清掃活動などが多い。また、総合的な学習の時間は、各学校の裁量で組み立てて授業をすることができるので、その反面、何をすればいいのかつかめないというのも現

状である。

(6) 総合的な学習の時間の削減についての結果は賛否両論である

文献

- 1) 大谷南海男：教育の力で日本を変えよう，文芸社（2002）。
- 2) 宮崎 擴道：創始期の手工教育実践史，風間書房（2003）。
- 3) 文部科学省，学力向上支援事業（平成 16（2004）年 4 月）。
- 4) 植田 深幸，魚住政男，澤本 章，林川 基治，宮崎 擴道：学ぶ意欲を高めるための改善に関する研究，山口大学教育学部研究論叢，58, 3, 133-146（2008）。

「学習に対する意欲についてのアンケート調査」

回答者：学部()、年齢(才)、
性別(男、女、いずれかに○印)

9 児童の理科離れ、算数離れが、社会問題となっ
ています。その対策のために、学習指導要領
改訂後は、小学校理科、算数の授業時数の増加
が計画され、理科、算数の学力の向上を目指し
ています。(理科の授業時間の例：小学校5年生、
現行95コマ/年→改訂後105コマ/年)(算数の時
間の例：小学校5年生、現行：150コマ/年→改訂
後175コマ/年)

その反面、世界観やものの考え方を教える
総合的な学習の時間が削減されます。(総合的
な学習の時間の例：小学校5年生、現行110コマ/
年→改訂後70コマ/年)理科授業時数の増加と総
合的な学習の時間の減少についてどう思います
か？

(1. 大いに賛成、2. 賛成、3. 普通、4. 反対、5.
大変反対) 1つに○をつけてください。

(ご意見：)

10 製造業における若手の後継者不足が社会問
題となっています。ものづくり技術力が保たれ
てきた日本ですが、これが揺らぎはじめていま
す。この対策として、技術関係の学会などが主
体を育てる教育を推進しようとする動きが
あります。これについて、どう思いますか？

(1. 大いに賛成、2. 賛成、3. 普通、4. 反対、5.
大いに反対) 1つに○をつけてください。

(ご意見：)

11 小学校において、コンピュータを活用したI
CT(情報通信技術)教育が推進されようとして
います。(ICT教育：日本の小中高等学校におけ
る情報コミュニケーション技術へのアクセス機
会の拡大を通じて、教職員、児童、生徒の情報化
社会に貢献する人材育成を行うこと。を目的と
し、そのための教育映像を併用した授業が向上
のイメージを、生徒の学習効果が向上している
結果が、どう思いますか？1つに○をつけてくだ
さい。

(1. 大いに賛成、2. 賛成、3. 普通、4. 反対、5.
大変反対) (ご意見：)

12 こどもの学力向上を行うには、どのように
すればよいかについて、以下の語群Bの①～⑫の
中からとくに効果的とおもわれるものを3つあげ
なさい。

・語群B：

- ①勉強するための場所、時間を確保する、
- ②勉強するための動機づけを自覚させる(将来
の職業や人生設計のため勉強し学力向上が必
要)、
- ③教材の開発をする、
- ④興味を引き起こす授業を行う(生徒に授業
のおもしろさを体感させる)、
- ⑤塾に行かせる、
- ⑥勉強する習慣をつけさせる、
- ⑦集中力をつけさせる、
- ⑧生徒にやる気をおこさせる、
- ⑨家庭を勉強しやすい穏やかな雰囲気とする、
- ⑩グループ学習をする、
- ⑪競争させ、生徒に刺激を与える、
- ⑫親が勉強するように言い聞かせる、

(他に、良い方法やお気づき(意見)があれば
書いてください。

・良い方法：()

・意見：()

13 あなたは総合的な学習の時間の授業を受け
たことがありますか。

(ある・ない) 該当するものに○をつけてく
ださい。
あると答えた方で、特に印象に残っている内容
があれば教えてください。

いつ：)

どんな内容：)

14 現在、新しい学習指導要領の改訂作業が中
央教育審議会(文部科学省の諮問機関)で大詰
めを迎えています。その中で、総合的な学習の
時間の授業時数が3分の1削減されようとしてい
ます。あなたはこれについてどう思いますか。
また、その理由を教えてください。

・(賛成・どちらかといえば賛成・どちらでも
ない・どちらかといえば反対・反対) 該当す
るものに○をつけてください。

理由：)

◎ご協力ありがとうございました。

図1 アンケート用紙

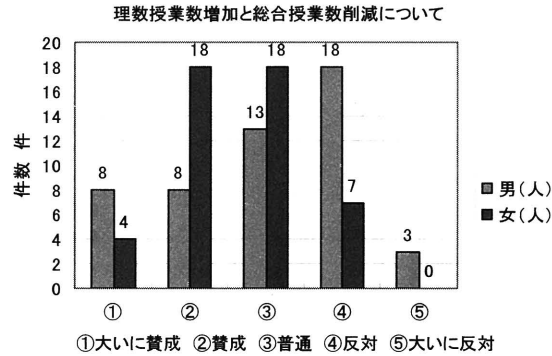


図2 理数授業数の増加と総合的な学習の時間の授業時間数の削減の回答

表1 理数授業数の増加と総合的な学習の時間の授業時間数の削減の回答に関するご意見

	男	女
大いに賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・時間数を増やすことは必要 1人 ・総合的な学習の時間が国語より多くとられていたことがおかしい 1人 ・何をやってたのかわからない 1人 ・時間が有効に使われていなかった 1人 ・効果があったのを知りたい 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・わざわざ総合的な学習の時間で学ぶ必要はない 1人
賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間は何をする時間なのか分からない 1人 ・理科の低下からやむを得ない 1人 ・授業数を増やすだけならばやらないほうがよい 1人 ・効果があるか疑問である 1人 ・学力低下が問題 1人 ・総合的な学習の時間を充実させるためには、国の準備が足りなかった 1人 ・学習の目的が明確ではない 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界観やものの考え方は授業中、友達との関わり、親のしつけなど様々な場面で考える機会がある 3人 ・理数とかさねた授業にすればよい 1人 ・何をしたか覚えていない 1人 ・長期休暇を利用し、自発的に行うことがよい 1人 ・日本の産業が衰退してしまう 1人 ・目的が明白ではない 1人
普通	<ul style="list-style-type: none"> ・活用できれば素晴らしい時間 1人 ・総合的な学習の時間を重視しなくてよい 1人 ・どちらも大切 2人 ・どちらがよいのか分からない 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数を戻すことは普通である 1人 ・どちらにしても変わらない 1人 ・科学の方面から見ると必要である 1人 ・世界観を養うことも大切 1人 ・教材の内容や教え方の改善 1人
反対	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で学ぶ内容は、授業等で意識しないと学べない 1人 ・総合的な学習の時間は重要 4人 ・レベルが低いから上げるという考え方はよくない 1人 ・人間の内面的な成長をさせる 3人 ・週五日制をやめ時間確保が大切 2人 ・自分で考える時間は大切である 1人 ・面白いという(質の高い)授業が必要である 2人 ・理数に力を入れるよりも、ものの考え方を高めることが必要である 2人 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の授業内容や指導法を改善したほうがよい 1人 ・授業が増えれば好きになるというわけではない 1人 ・ものを考える授業を増やすほうがよい 1人 ・広い視野で世界をとらえることが必要である 1人
大いに反対	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間は普段考えないことを考えるいい機会である 1人 ・文部科学省は目先のことしか考えていない 1人 	

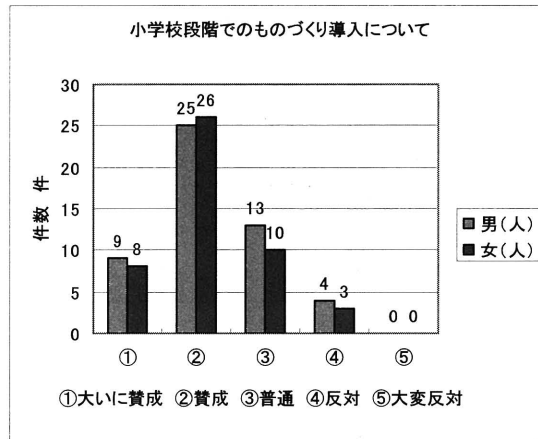


図3 小学校段階でのものづくり教育の導入についての回答

表2 小学校段階でのものづくり教育の導入についての回答に関するご意見

	男	女
大いに賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に即した内容やものづくりは生きる力につながる 1人 ・ものをつくる楽しさ、達成感を味わうことが大切である 1人 ・ものづくりに興味や関心を持つことが大切である 2人 ・小さい頃から体験しておくといよい 1人 ・目的があれば努力できる 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃から理解しておくべき 1人 ・日本は製造業で外貨を稼いでいる 1人 ・食料は自給自足できない状態だから、製造業の発展が必要 1人 ・考える力がつく 1人
賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり力を高めるためには、小学校段階からの教育が必要 2人 ・心を豊かにする力がある 2人 ・ものづくりの技術は必要 3人 ・興味をもってほしい 2人 ・地域との結束力が強くなる 1人 ・図画工作に取り入れれば、ものを大切にしようとする 1人 ・基礎的学習がなされれば問題ない 1人 ・実際に技術を継ぐ人がいなければ意味がない 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの感性を養ういい教育になる 1人 ・将来役に立つ 1人 ・友情も深まる 1人 ・興味・関心がわくと思うのでよいと思う 5人 ・小さい頃から製造業の魅力を与えておくことは必要である 1人 ・脳の柔らかいうちに行ったほうがよい 1人 ・新しい発見があるかもしれない 1人
普通	<ul style="list-style-type: none"> ・無理なことを詰め込む必要はない 1人 ・何でも早く行えばよいわけではない 1人 ・強制するのはよくない 1人 ・学習時間が削られないか心配 1人 ・後継者不足だからしてもよい 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・図画工作があるので必要ない 2人 ・勉強を優先させるべき 1人 ・ものづくりだけで授業を行ったら、他の授業がへってしまう 1人
反対	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり関係に進みたくない子どもには必要ない 1人 ・大人の考えを子どもに押し付けてはならない 1人 ・自然と使命感のある若者がでてくる 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生には勉強をさせるべきである 1人 ・やりたい人だけやればよい 1人

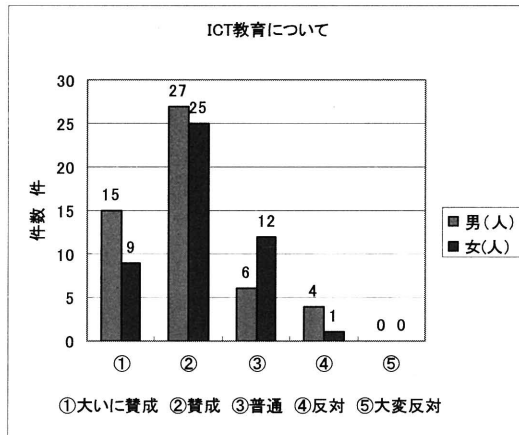


図 4 ICT 教育についての回答

表 3 ICT 教育についての回答に関するご意見

	男	女
大いに賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず必要だと思う 2人 ・媒体があると興味を持ちやすい 2人 ・問題解決能力がつく 1人 ・コンピュータが社会で大きな役割を果たしている 1人 ・パソコンが使えることが当たり前の時代だから 1人 ・意欲・好奇心につながる 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後必ず必要 3人 ・情報技術が必要な社会 1人
賛成	<ul style="list-style-type: none"> ・媒体を活用するとよく伝わる 2人 ・小学校からだだと習得しやすい 5人 ・学習効果の向上につながる 5人 ・将来必ず必要 4人 ・マナーも教えるべき 2人 ・産業の発達にもつながる 1人 ・楽しい、とっつきやすい 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲がます 2人 ・楽しい 1人 ・子どもたちに書かせることも大切 1人 ・学習効果の向上につながる 1人 ・これからの時代必要 3人 ・媒体を活用するとよく伝わる 2人 ・早いほうが習得しやすい 1人 ・モラルの育成 1人
普通		<ul style="list-style-type: none"> ・実際学力が向上しているのなら必要 1人 ・興味を持たせることは大切 1人 ・ゲーム感覚程度で行うべき 1人 ・必要かわからない 1人 ・遊びのほうが大切 1人 ・一方的だと児童が聞かない可能性がある 1人
反対	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを使うと外で遊ぶ時間が減ってしまう 1人 ・インターネットは悪影響な部分もある 1人 ・他の勉強を増やしたほうがよい 1人 	

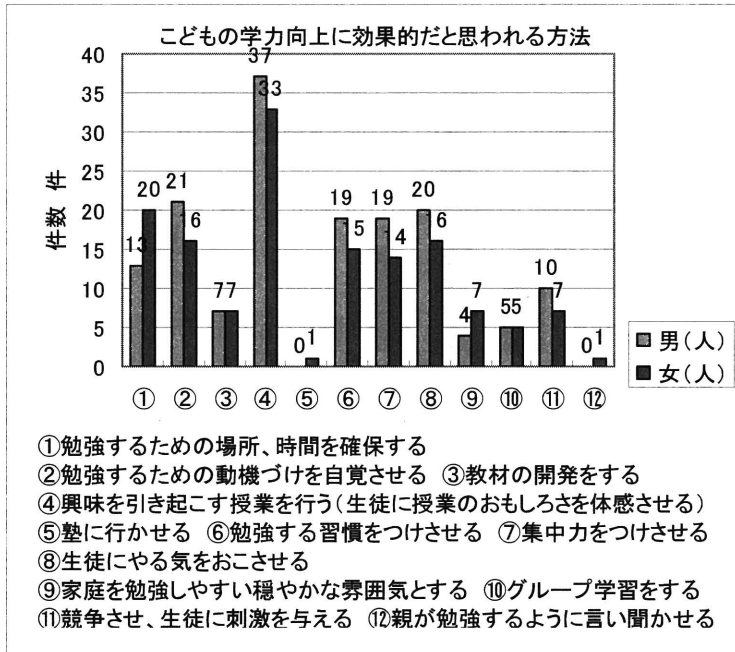


図 5 子供の学力向上に有効と思われる方法についての回答

表 4 子供の学力向上に有効と思われる方法についてのご意見

男	女
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で勉強しやすい雰囲気を作ることで、休みがてらコミュニケーションをとる 1人 ・運動させる、クラブに入れる 1人 ・子どもが自発的に勉強できるようにする 1人 ・競争相手を作って勝負形式にする 2人 ・信頼関係 1人 ・早寝早起き 1人 ・好きな教科を1教科でもいいから作る 1人 ・言い方や接し方 1人 ・反復学習 1人 ・強制しない 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境が大切 1人 ・基礎的な力を身に付けることが大切 1人 ・たくさんの本を読ませる 1人 ・質問しやすい環境 1人 ・町の図書館などを工夫する 1人

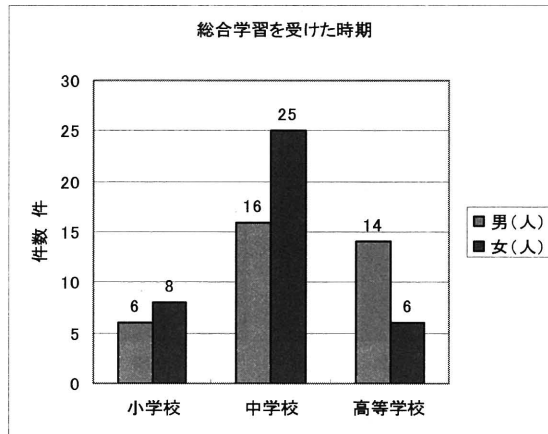


図6 総合的な学習の時間を受けた時期

表5 総合的な学習の時間の内容について

	男	女
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人と菊を栽培した 1人 ・ 地域の人が来て地域のことを話す 1人 ・ 田植え 1人 ・ 地域の清掃活動 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳のような授業 2人 ・ 豆腐づくり 1人 ・ 地域清掃 1人
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場体験学習で工場へ行った 1人 ・ 職場体験学習で働く意義を学んだ 7人 ・ 地域の高齢者を招き出し物をした 1人 ・ テーマを決めてグループで取り組んだ 1人 ・ 自分の進路について考えた 3人 ・ よく覚えていない 4人 ・ 多くの講演を聴いた 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場体験 5人 ・ 自分の郷土について 1人 ・ ロールプレーイング 1人 ・ 竹でものづくり 1人 ・ よく覚えていない 2人 ・ いじめ問題 ・ グループでテーマを決め話し合う 2人 ・ 米づくり 2人 ・ 地域清掃 1人 ・ 進路について 1人
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他のクラスとディベート 1人 ・ 人権について 2人 ・ OBの方から高校時代の話聴く 1人 ・ 多くの講演を聴いた 1人 ・ 1つのテーマを決めて論文を書く 1人 ・ 地域巡検 1人 ・ 進路について 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方とディベート 1人

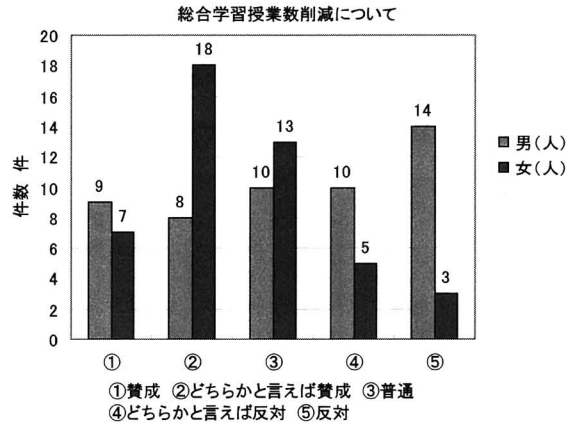


図 7 総合的な学習の時間数の削減について

表 6 総合的な学習の時間数の削減についてのご意見

	男	女
賛成	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の存在意義が分からない 5人 他の授業とのバランスがとれていなかった 1人 仕方がない 1人 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のためになっているか分からない 1人 多くの時間は必要ない 1人 必要ない 1人 学校でしかできない内容ではない 1人 目的が分からない 1人
どちらかと言えば賛成	<ul style="list-style-type: none"> 地域を学ぶ機会はこのような場で設けないと気付きにくい 1人 あまり役に立つ授業とは思えない 4人 	<ul style="list-style-type: none"> 削減されても、それを補う内容ができればよい 3人 ゆとり教育で学習しなくなった今、削減は仕方がない 2人 「自ら考える力」をどうつけさせるかが重要 1人 重要であったとは思わない 2人 他の授業に回したほうがよい 1人
普通	<ul style="list-style-type: none"> もともと多すぎたため他の時間数を増やすのは仕方がないこと 1人 受けたことがない 1人 学力低下を防ぐためには仕方がない 1人 分からない 1人 	<ul style="list-style-type: none"> 仕方がないが大切な教科だから、ある程度は必要 2人 あまり覚えていない 1人
どちらかと言えば反対	<ul style="list-style-type: none"> 大事な授業だと思う 1人 ゆとり教育をやめれば時間数を削減しなくてすむ 1人 学問以外の分野で深く考えることは必要 1人 普段学べないことが学べる 1人 減らすべきではない 1人 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら考える力が身につかない 1人 どの教科よりも大切なことを学ぶ内容があるから 1人 できるだけたくさんの方の体験させるべき 1人 地域の人と接することができる 1人
反対	<ul style="list-style-type: none"> 団結力の大切さや目標を立ててやっていくこと、自己分析をする絶好の機会 3人 普段考えないことを考えることができる 1人 無駄な時間ではない 1人 考える力を伸ばすための授業 3人 もう少し長い目で見るとよい 1人 本当の学習を教えるもの 1人 楽しいし、地域の方と触れ合うことができる 1人 学力だけ高めても心の無い社会では意味がない 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ゆとり教育はよいが、授業時間を削減することは間違いである 1人 役に立つ教科である 1人